

〈動向〉

第4回関学レインボーウィークを振り返って： Web調査の結果に基づくキャンパス改善のための提案

武田 丈

今年度4年目を迎える関学レインボーウィーク(以下、KGRW)は、例年通り「IDAHOT (International Day against Homophobia and Transphobia, 国際反ホモフォビア・反トランスフォビアの日) =多様な性にYESの日」である5月17日の前後に開催された。過去3年間と異なるのは、1週間という開催期間から、今年度は西宮上ヶ原キャンパスと西宮聖和キャンパスでは2016年5月16日(月)から20日(金)まで、神戸三田キャンパスでは5月23日(月)から27日(金)までという、全体で2週間のイベントに拡大された点である。こうした変化の背景には、このイベントを支えてくださっている三田キャンパスの学生および教員ボランティアの熱い思いがあった。

また、今年度のKGRWのテーマは、「みんなが気づけば、関学も変わる！: 関西学院に集う一人ひとりが、キャンパスの中の虹のようなそれぞれの多様性に気づき、考え、認め合えば、誰もが自分らしく振舞える、今よりもっと素敵なキャンパスに変わるはず」であった。これは、2015年度のKGRWの振り返りの中で(小林・飯塚・武田・北山, 2016)、それまでの「関学キャンパスの風土を変えていく(多様性を受け入れる風土を醸成していく)」ことと並行して、キャンパス内の制度や設備を多様性に対応したものへと具体的に変わっていくことも目指すべきであるという思いが込められていた。しかし結果的には、このテーマが、また新たな課題を生み出すことになるのだが、そのことは最後に議論するとして、本稿ではまず初めに2016年度のウィークをプ

ログラムごとに振り返ったのち、参加型アクションリサーチ的に取り組んだWeb調査の結果の一部とその結果を元にしたキャンパス改善案を紹介し、最後に来年度以降のKGRWの目指すべき方向性について議論したい。

1. プログラム内容

(1) オープニングイベント

一昨年度のゲリラライブ、昨年度の中央芝生でのオープニングイベントは、どちらも教員が中心となって行ってきた。しかし、2016年度は「より多くの学生にKGRWのことを知ってもらおう、その趣旨を理解してもらおう」ということを目指して、上ヶ原キャンパスでは初日にあたる5月16日(月)の昼休みに、司会や設備を総放送局が担当し、ステージもグリークラブとクレセントパーティの有志がつとめる形で開催された。生憎の小雨がぱらつく天候だったため、中央芝生から急きょ中央講堂に会場を変更したにも関わらず、100名以上の参加者が参加し、村田学長らによる開会の挨拶の後のステージでは、会場のあちこちでレインボーフラッグがはためいた。一方、三田キャンパスの初日である5月23日(月)の昼休みにもCentral Gardenでオープニングイベントが開催されたが、三田キャンパスでの独自の開催は初めてで認知度がまだ低かったため参加者が少なく、次年度に向けて課題が残った。

(2) 人権問題講演会

関西学院大学では、例年春と秋に人権問題講演会を開催しており、近年は春学期にセクシュアリティや多様性をテーマとしたものを開催してきた。そこで2016年度からはKGRW期間中に開催することとし、5月19日(木)の2限に三田キャンパスで、4限に上ヶ原キャンパスで、NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事の原ミナ汰氏に「LGBTが生きやすい世の中にするため、大学は何ができるか～誰もがカミングアウトを受けとめる「キャッチャー」に」と題する講演を行っていただいた。参加者からの「はじめてLGBTという言葉を知った」や「そんなに多くのLGBTがいることを初めて知った」といった感想が示すように、この講演会で、初めて多様なセクシュアリティの存在や、そうした人たちが直面する課題を知った人たちも多いた。また、「実際にLGBTの方からカミングアウトされた際の具体的な情報を教えて頂けて、非常に勉強になりました。これからは傍観者から援助者になれるようにしたいです」といった感想に見られるように、講演会の中ではカミングアウトされた際にどのように反応すればいいのかといった具体的なお話もあった。一方当事者の参加者からは、「…のお話を聞き、日本にはまだまだ悩み、苦しんでおられる方が多くおられる事を、数字(データ)を見る事で再確認した…。関学の職員、教員の中にはまだまだ理解のない発言や考えを、周りの気持ちを考えずにされる方もいます。関学もさらにこういったイベントを通し、学生、職員共に気持ちよく生活できる環境になる事を希望しております」といった感想も寄せられた。

(3) 映画上映会

KGRWでは、これまでセクシュアリティに関する映画上映会を開催してきたが、今年度は上映会の回数を以下のように増やして実施した。

上ヶ原キャンパス：@図書館ホール

5月16日(月) 4-5限

「パレードへようこそ」(2014年、英)

5月17日(火) 4-5限

「チョコレートドーナツ」(2012年、米)

5月18日(水) 4-5限

「ミルク」(2008年、米)

5月20日(金) 3-4限

「パレードへようこそ」(2014年、英)

三田キャンパス：@コモンズシアター

5月25日(水) 4-5限

「パレードへようこそ」(2014年、英)

5月26日(木) 4-5限

「ミルク」(2008年、米)

(4) 学部合同礼拝「レインボーウィークを覚えて」

学生ボランティアの中からの「キリスト教に基づく関西学院大学なのだから礼拝を通してKGRWの取り組みをしたい」という提案により、5月18日(水)のチャペルアワーには、ランバス記念礼拝堂にて学部合同礼拝「レインボーウィークを覚えて」が行われた。

(5) 多様な性を祝う集い

上記の礼拝が学内の人を対象としていることから、地域の方々にも参加していただける企画として5月19日(木)の18:30から20:00にかけては「多様な性を祝う集い」をランバス記念礼拝堂で開催した。このイベントでは、学内外からのゲストをお招きし、歌、語り、参加者によるワークなど、さまざまな形を通してセクシュアリティの多様さを大切にできる機会を設けた。

(6) パネル展

毎年開催しているパネル展であるが、これまでの上ヶ原キャンパス(5月16～20日)だけでなく、今年度は三田キャンパス(5月23～27日)と聖和キャンパス(5月16～20日)でも開催された。こ

れまでのように「いのちリスペクト。ホワイトトリボン・キャンペーン」や教職員からのキャンパス内の多様性を尊重するメッセージとともに、今年度は学生からのメッセージも展示された。また、第3回KGRWで実施したWeb調査の結果の一部（キャンパス内において性的マイノリティが直面する課題）も、パネルにまとめ展示した。参加者からは「私が思っているよりも性的な問題で悩んでいる人が多いんだと感じました。実際に関学でもLGBTの人は多くいることが調査を見てわかったのでもよかったです」や「この学校にもゲイが私だけじゃない…！すごいと思いました。キリスト教学校にはこのようなものみとめないと思いましたが、うれしいです」といった感想が寄せられた。

(7) LGBT 関係図書の展示

関学図書館の企画として、このKGRWが始まる以前の3月11日から5月27日まで、上ヶ原キャンパスの図書館エントランスホールの展示ケースにおいて、「あなたはLGBTについてどれほど知っていますか？」と題する多様なセクシュアリティに関する書籍の紹介が行われた。

(8) 交流会&ぶっちゃけトークセッション

性的マイノリティの学生たちがお互いにつながる機会として、過去2年に続き、上ヶ原キャンパスの最終日にあたる5月20日（金）の18:30より交流会を実施した。また、この交流会に先駆けて、5限の時間帯には学生有志に集まってもらい、次節で紹介するWeb調査の結果を元に、関学キャンパスの改善要求に関するトークセッションも行った。

2. Web 調査の結果概要とそこからのアクション

2015年度の第3回KGRWでのWeb調査（有効回答数111名、うち性的マイノリティは58名）では、キャンパス内で学生や教職員がセクシュアリティを理由に困難に直面したり、ハラスメントを受けたと感じていることが明らかになった（小林・飯塚・武田・北山, 2016）。そこで、今年度の調査では、

実際に誰にとってもいきやすいキャンパスへと関学を改善していくことを目指し、困難やハラスメントの有無だけでなく、具体的にそれらの困難やハラスメントに対してどのような対応をすべきかに関する意見を収集した。

(1) 調査方法

今年度の調査は、レインボーウィークの期間にあわせて2016年4月15日～6月17日に行った。広報は、KGRWの配布パンフレットに掲載するとともに、ウィークの各プログラムにおける口頭での宣伝、Twitter、LINE、FacebookなどのSNSの利用、学内の情報掲示板（教学webサービス）においても行った。その結果、昨年度の倍近い202名（当事者：79名、そのうちトランスジェンダー13名、非当事者：118名 セクシュアリティの無回答：5名）の方たちからの回答をいただくことが出来た。

具体的な質問項目としては、「就職活動」、「キャンパスライフ」、「大学の授業」、「健康診断」、「トイレ」、「更衣室」、「授業内評価アンケートなどの書類」、「窓口や相談機関」のそれぞれに関して、セクシュアリティを理由とする問題、困難、不安の有無（ある場合は具体的な自由記述）と、その解決策として大学はどのような対策をする必要があるのかを選択肢の中から選んでもらう形（複数回答）で、意見を収集した。

(2) 結果の概要とキャンパスに向けての具体的な改善プラン

ここでは、就職活動、健康診断、トイレ、更衣室の4つの項目に関して、調査結果から見える関学キャンパスの課題と、改善に向けた提案を紹介する。

【就職活動】

課題

就職活動に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことのある人の割合は、非当事者が5.0%なのに対して、当事者は25.8%、トランスジェンダーだけに絞れば62.5%であった。

提案

- 当事者やトランスジェンダーの人からもっとも要望が高かったのが「LGBTフレンドリーな企業リストの作成」であり、実際にこうした対応が求められる。
- 当事者の卒業生（LGBTフレンドリーな企業に勤めている人、またそうでない企業に勤めている人）の話聞く機会の提供も有効だと考えられる。
- 就職支援の一環としてキャリアプランなどに関する研修におけるLGBTに対する配慮（たとえば、結婚や出産といったことは必ずしも当てはまらない）も必要だと考えられる。

【健康診断】

課題

健康診断に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことのある人の割合は、非当事者が1.7%なのに対して、当事者は8.3%、トランスジェンダーだけに絞れば55.6%であった。

提案

- 当事者やトランスジェンダーの人からもっとも要望が高かったのが「健康診断開催日に、男女問わずに個別対応できる日を設ける」であった。しかし、自由記述の中にはトランスジェンダーの学生から「保健館に個別に対応してもらいました」というものがあり、調べてみると保健館はすでに個別対応を行っていることが確認できた。Web調査の結果は、残念ながら保健館が個別対応している事実が当事者たちに十分伝わっていないことを示していると考えられる。したがって、入学生向けの案内だけでなく、毎年作成して学内で掲示したり、配布したり、HPでアップしている「定期健康診断のお知らせ」にも、個別対応していることを明記していくことが必要であろう。

【トイレ・更衣室】

課題

学内のトイレに関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことのある人の割合

は、非当事者が2.6%なのに対して、当事者は4.2%、トランスジェンダーだけに絞れば20.0%であった。また更衣室に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことのある人の割合は、非当事者が1.9%なのに対して、当事者は5.9%、トランスジェンダーだけに絞れば44.4%であった。

提案

- Web調査の結果では、トイレに関しては「既存の障害者トイレを誰でもトイレ／ユニバーサル・トイレ／多機能トイレなどに名称変更する」と「学内に障害者用／多機能トイレの数を増加する」の要望が多かった。
- こうした結果に鑑み、既存の障害者トイレを誰でもトイレ／ユニバーサル・トイレ／多機能トイレなどに名称変更することを検討する必要がある。
- 今後新設の建物をデザインする際には、可能な限り各フロアに最低1つ、できれば2つの障害者用／多機能トイレを設置することを検討することが求められる。
- 更衣室に関しては、「性別を問わず利用できる個室の更衣室を設ける」や「脱衣所に仕分けをつくる」といった要望が多かった。現状ですぐに改修や増設することは難しいかもしれないが、将来的にはLGBTの学生が利用する可能性を考慮して新設や改修の計画を検討することが必要であろう。
- また、聞き取り調査からでは、実際にはトランスジェンダーの学生は男女別に分かれた更衣室（たとえ内部に個室や仕切りがあっても）に入室すること自体が難しく、トイレなどで着替えることが多いとのことであった。しかし、ロッカーはそれぞれの男女別の更衣室の内部にしか設置されておらず、トランスジェンダーの学生が荷物を置く場所がない。そのため、男女別の更衣室の外にもロッカーを設置することの検討も必要であろう。
- さらに、将来的には男女に分かれた更衣室の外に個室の更衣室をいくつか用意することや、男女別の更衣室の内部にはロッカーを置かず、すべて更衣室の外にロッカーを設置するなどの可能性も

議論されていいであろう。

【相談機関】

課題

窓口や相談機関に関してセクシュアリティを理由に問題、困難、不安を経験したことがある人の割合は、非当事者が0.9%なのに対して、当事者は6.8%、トランスジェンダーだけに絞れば40.0%であった。自由記述のなかには、「自分の性別について2回カウンセリングしてもらいましたが、なかなか予約が取れないし、あまり解決には向かわなかったもので、通わなくなった。(Trans to Female/学生)」や「カウンセラーに面談へ行ったら、相談したい項目の中に性指向の事もあったが、カウンセラーはかなり露骨にその話題へ触れないようにして流されてしまい、結局話したかった事のほとんどを話せないまま面談が終わった。(レズビアン/学生)」といったものがあつた。

提案

- 利用者の中にLGBTを含む性的マイノリティがいることを前提にすべての相談や窓口対応が実施されるように、研修など、カウンセラーを含む職員に対する再確認の作業を行うという意見が多かった。

人権教育研究室としては、このWeb調査結果を元に、今後、学内の各担当部署と協働して、具体的にキャンパス改善に向けた活動を行っていく予定である。詳細については、来年度の本誌で報告する。

3. 今年度の反省と次年度に向けて

4年目を迎えたKGRWは、まだまだ大学主催でこうした取り組み行われることが少ない日本社会では先進的な取り組みとして捉えられ、新聞に取り上げられたり、他大学などから問い合わせされることも増えてきた。しかし、実際には毎年その方向性やプログラムに関しては、試行錯誤の連続である。

KGRWは、性的マイノリティの学生たちにお互いにつながる機会を提供することと同時に、あるい

はそれ以上に「キャンパス内の風土を変えていく」という、いわゆるマジョリティ側の意識を変えていくことを目的に行われてきた。そのため、オープニングイベント、人権問題講演会、映画上映会、合同礼拝、パネル展などを実施してきた。しかし、運営に関わっている性的マイノリティの学生スタッフからは「当事者を対象としている視点が不足している」という指摘もされている(飯塚, 2017)。たとえば、今年度のテーマの「みんなが気づけば、関学も変わる! : 関西学院に集う一人ひとりが、キャンパスの中の虹のようなそれぞれの多様性に気づき、考え、認め合えば、誰もが自分らしく振舞える、今よりもっと素敵なキャンパスに変わるはず」は、マジョリティ側に訴えかけるものであり、ここには「当事者を対象としている視点」が欠落している。そのため、このテーマを訴えかけた性的マイノリティの学生たちは戸惑ってしまったであろう。また、第2回のKGRWから配布している「多様なセクシュアリティを尊重します」という証としてのレインボーステッカーに関しても、性的マイノリティの当事者にとっては意味合いが異なり、場合によっては「あなたはなぜ貼らないのか?」と問われる立場に追い詰めてしまう可能性も否定できない。風土を変える啓発のためのさまざまなプログラムも、当事者から「多様なセクシュアリティへの理解が広まり嬉しい」といった肯定的な意見をもらうこともある一方、自分のセクシュアリティを公にしておらず、マジョリティの中に埋没して生活している当事者からは「そっとしておいてほしい」や「大騒ぎしてほしくない」といった否定的な意見もある。

こうした多様な意見もあって、今年度のKGRWでは「風土を変える」ことともに、「制度や設備を変える」ことを目指すようになった。しかし、本当に「誰もがいきやすいキャンパス」を目指すのであれば、最終的にはキャンパス全体の風土を変えていく必要があると信じる。そのためには、当事者の視点や立場を意識して、どのような内容の、どのような啓発イベントを行うべきなのか、2017年度のKGRWの実行委員会のミーティングですで

に熱い議論が行われている。もちろん、その答えは簡単に出せるものではないし、誰もが納得できるプログラムを作ることは不可能であろう。しかし、当事者と非当事者がお互いの視点や立場で意見を交換し、お互いに意識してバランスを取り合うことで、少しでも「誰もがいきやすいキャンパス」の実現に寄与できる KGRW が、今後も開催し続けられることを強く願う。

参考文献

小林和香・飯塚諒・武田丈・北山雅博 (2016) 「関学レインボーウィークが提示する LGBT の在り方」『関西学院大学 人権研究』20, 33-41.

飯塚諒 (2017) 「関学レインボーウィークの二面性を超えて」『KG 社会学批評』印刷中